荒木光太郎文書 59

荒木

理財局特別情報第四十八號

（昭和二二年二月二〇日 理財局）

終戰後の米國國際取引

目次

一、序 …… 一
二、商品貿易 …… 五
1、概觀 …… 五
2、輸出 …… 六
3、輸入 …… 九
三、サービス取引 …… 一一
1、概觀 …… 一二
2、船舶サービス …… 一二
3、対外投資の收益 …… 一三
4、特別サービス …… 一四
5、海外旅行サービス …… 一四
四、米國の寄附及びクレヂット引渡し …… 一五
1、一方的引渡し …… 一五
2、米國政府その他のクレヂット引渡し …… 一七
五、外國金及び米資産の処分 …… 一八
1、概觀 …… 一九
2、金の流入 …… 一九
3、外國米殘高の使用 …… 二一
4、外國証券の売却 …… 二二
六、一九四七年國際收支予想 …… 二二
1、概觀 …… 二三
2、收入 …… 二三
3、支出 …… 二四
4、收支勘定 …… 二五

終戦後の米国國際取引（F.R.B一九四六・一二月歸拔萃）

一、序

顧れば対日終戦後最初の一ヶ年における国際取引は平時の基準からいうと、金額も非常に多く且つ復雑であつた。というのは米国経済は戦時中に果したデモクラシーの兵器廠から、戦後における世界の食料庫及び作業場に轉換しなければならなかつたからである。同時に米国が戦時中連合国に対して行つた援助の方式にも変更を余儀なくされた。即ち武器貸与計画は対日終戦とともに事実上消滅し、それに代つて世界戦災地域向の物資供給に対する融資方式が考へられなければならなかつた。

次表は対日終戦後一ヶ年における米国々際取引の一般情勢を示したものである。

一九四五年九月より一九四六年八月に至る米国々際取引見積額（単位億ドル）

	貸方	借方	差引（＋印借方）
物資及びサービス			
輸出入報告		八八四四	四四
その他物資取引		二〇	三二一七
サービス		三二	二〇七二
小計		一四〇六	七三
米国よりの寄附			
アンラ		一一	一一
武器貸与			八
占領地向供給			五
民間寄附			
小計			六
米政府クレヂット引渡し			三二
輸出入銀行貸付及び対英クレヂットの現金支拂			一〇

武器貸与クレヂット			一
余剰物資クレヂット			二六
小計			二七
外国金及び非資産の使用			一〇
雑			四

(註)

1. 前記余剰物資クレヂットの項目は、主として海外にある軍事余剰物資の賣却ならびに余剰綿花ストック売却に対する小額のクレヂットを含む

2. 雑の項目は、その他の資本取引ならびに「他」の項目における誤差及び脱落から成る民間資本の純流出も含まれている。

(備考)

戦時中の国際收支概観(時經二〇・五・一八)

1. 戦時中米国は債權国の地位から債務国に変つたが、その主なる原因としては次の三つがあげられる。

(一) 戦時下における米国よりの輸出の大部分が武器貸与制の適用をうけたこと

(二) 戦時生産拡充のため変則的に尨大な原料輸入を必要としたこと

(三) 在外米軍の軍費として巨額の支出が行はれたこと

2. ニューヨーク・ナショナル・シチー銀行は米国の国際收支につき次の如き数字を発表した

	一九三九—四一年	一九四二—四四年
		(単位百万弗)
商品貿易尻	(十)三四〇七	(一)一七四七
サービス(含軍事費)	(一)一〇七六	(一)三一五一
金融及び資本取引(十)	二四二六	(十)一四五一
以上收支尻	(十)四七五七	(一)三四四七
国際收支尻決済の内訳は		
	一九三九—四一年	一九四二年—四四年
外国公保有	(一)七六八五	(十)二一一五

外国政府米資金(十)　八八六　(十)一六一五
国際收支尻差引(十)二〇四三　(二)二八三

二　商品貿易

1. 概觀

国際收支を構成する最も大きな要素は商品貿易の動きである。しかしながら対日終戦以来一二ヶ月の輸出八八億弗の外に、米国が海外で行つた他の商品取引約二〇億弗がある。

後者の中には

(1) 軍事余剰物資の売却ないし引渡し
(2) 海外での武器貸与法による供給
(3) 占領地域における分配用として陸軍が獲得した民間物資の積出し

が含まれている。同様に記録されている輸入額四四億弗の外に、米国が海外で買つた金額(在外米国軍隊による買付を含む)約三億弗が加算されなければならない。

2. 輸出

(一) 輸出額

(1) 記録された輸出八八億弗は、戦時中米國が連合國に多額の軍需品を積出していた当時に比較すれば非常に少い。しかしながらこの減少は戦災地域の救済復興のために必要とする民間物資の輸出激増で回復された。

(2) 記録された輸出は一九四六年才二・四半期には年一〇〇億弗の割合に達した。若し九月に海運罷業がなかつたならば才三・四半期の輸出はこの水準を超過したであろう。一九三六―三九年の平均輸出は僅か三〇億弗であつた。尤もこれは現在の価格に直すと五〇億弗以上に相当するであろう。

(二) 輸出商品の構成と地理的分布

対日終戦後一二ヶ月間における輸出の商品構成及び地理的分布は、戦時中のそれとは著しく差違があり戦前に比べ

ても若干の相違がある。

(1) 輸出商品の構成

(イ) 戦時中の輸出は武器貸与計画にもとづく完成武器弾薬が多かつたので、製造品が圧倒的で原料及び食料品は割合に少なかつた。

(ロ) 対日終戦後の一ヶ年にあつては、完成及び半製品の占める割合は一九三九年のそれよりも少い。これは國内の食糧生産が多額に上つたのと、海外特に欧洲戰災國における異常な食糧需要とのために食糧の輸出が頗る重要性を持つに至つた結果である。

(ハ) 終戦後才一ヶ年における米國の總輸出の四分の一は原及び製造食糧品で占めていた。戦争直前にあつては總輸出の一〇%ないし一五%を占めていたに過ぎない。

(2) 輸出の地理的分布

(イ) 輸出の地理的分布は終戦以来、戦前のそれに復帰する傾向が見えるが、しかし欧洲における特別救済及び復興需要と、他方多くの極東市場における常態復帰困難のため両地域に対する輸出に若干の移動が見られる。

(ロ) しかし欧洲の收獲回復と欧大陸に対する救済の減少により同地に対する食糧の輸出は若干減少するものと信ぜられる。中國、日本及び南東アジアとの通常の通商関係が漸次回復されるとともに、極東に対する米国の輸出は戦前の地位に復帰するであろう。

米國輸出商品の構成（金額單位百万弗）

商品別	一九四五年九月—四六年八月 金額	比率	一九四四年 金額	比率	一九三九年 金額	比率
原料	一、二二五	一四・三%	五五四	三・九%	五二八	一六・九%
原食糧	七一〇	八・三	一三五	〇・九	一一一	三・六
製造食糧	一、四七四	一七・二	一、六三三	一一・五	二〇二	六・五

3 輸入

(一) 輸入額

米国への輸入は、終戦以来堅実な上昇傾向を示している。尤もその数量は、米国内における高率の所得及び産業状態から見ると、そう大きなものではない。戦前の所得対輸入の比率を基礎に算定すれば、対日終戦後一ヶ年間における輸入は現在の価格で七五億弗に達する筈であるが、実際の輸入は四四億弗であつた。

	半製品	完成製品	計
	八三四	四三二七	八五七〇
	九・七	五〇・五	一〇〇・〇
	一・〇九六	一〇・七四六	一四・一六四
	七・七	七五・九	一〇〇・〇
	六一五	一・六六七	三・一二三
	一九・七	五三・四	一〇〇・〇

(二) 輸入の地理的分布

(1) この減額は、欧洲及びアジアにおける経済破壊のため平時における程の物資を米国に輸出し得なかつた為である。この両地域は戦前の一九三九年には米国輸入総

額の半分以上を供給していたが、対日終戦後の第一ヶ年には僅かに三分の一を供給したに過ぎない。

(2) 西半球諸国は戦時に獲得した対米供給国としての有利な地位をなお維持しているが、カナダからの輸入は対日終戦後若干減つている。これは戦時中の米加通商関係を特色づけていた半製品及び完成品の大々的交換が削減されたことを示す。

(三) 輸入商品の構成

(1) 現在米国輸入貿易において、原料品の輸入は戦前よりも大きな部分を占めているが、これはこれら商品が比較的大部の値上りを示したのと、米国における工業生産が頗る多量に上り且つ減少していた原料手持の補充を行はんとしているためである。

(2) この現象は極東からの原料輸入が引続き低水準にあるに拘らず起つたものであるが、米国の天然資源が減つ

た結果、これは米国輸入貿易の恒久的現象となるであろう。

(3) 原食糧の輸入が戦前に比較して割合に増加したのはこれら商品の相場が現在高いためであるが、世界における基本食糧の生産が、回復したら相場は低落するものと予期される。

米国輸入商品の構成（金額単位百万弗）

商品別	一九四五年九月—四六年八月 金額	比率	一九四四年 金額	比率	一九三九年 金額	比率
原料	一、五一一	三四.九%	一、〇六九	二七.六%	七四五	三二.七%
原食糧品	七三〇	一六.九	八四一	二一.七	二九一	一二.八
製造食糧品	四五〇	一〇.四	五二一	一三.四	三一三	一三.八
半製品	八八一	二〇.三	七〇六	一八.二	四八七	二一.四
完製品	七五九	一七.五	七四一	一九.一	四四〇	一九.三
計	四、三三一	一〇〇.〇	三、八七八	一〇〇.〇	二、二七六	一〇〇.〇

三、サービス取引

1 概観

終戦後一ヶ年間に米国が諸外国に与えたサービスの金額は、同期間に米国が外国より受取った金額より恐らく一二億弗を超過している。米国は船舶及び輸送サービスにおいて、頗る多額の純受取勘定を持つており、多額の純配当及び利子支拂を受けており、また政府の年を通じて多額の特別サービスを諸外国に与えている。一方これを相殺する最も大きな項目は、在外米軍に与へられる外国のサービスである。

2 船舶サービス

(一) 米国は戦前までは船舶サービスでは普通、外国への支拂超過となつていたが、この地位から脱した。尤も終戦以来外国の船舶で米国の貿易運搬に参加したものは増加しているが、しかし船舶その他輸送勘定での米国に対する支拂超過額は戦後一二ヶ月間引続き多額に上り、同期間のそれは恐らく一二億弗に達するであろう。

(二) しかし諸外国では、新造船もしくは余剰米船の購入によつて商船隊を再建しつゝあるので、米国の純船舶収入は将来著しく減少するものと見られる。

3 対外投資の収益

(一) 終戦後一ヶ年における米国の対外投資からの純収入は恐らく四億弗に上り戦前のそれを若干上廻つている。

(二) 米國の対外投資は外国の対米投資より幾分少いが、主として証券及び財産に対する投資である。従つてその移動は稍々困難であるが、比較的高率の収入を挙げている。これに対して外国の対米投資は大部分銀行預金かまたは短期流動投資である。

(三) 米国は外国に対して新規借款を与えてをり、一方諸外國は、米国内にある資産を処分しているので国際債權国としての米国の地位は拡大され、純投資収入は将来さらに増加するであろう。

4 特別サービス

(一) 米国政府によつて諸外國に与えられた特別サービス、例えば船舶の修理、軍隊の輸送及び現地における米軍隊の諸種の活動は戦時武器貸与計画において重要な要素をなしていた。対日終戦後はのようなサービスの量は急速に減少したが、戦争直後の数月間にあつては、特に中国において多額に上つた。その金額は約六億弗に上つているであろう。

(二) 船舶その他輸送以外の各種サービスに対する米国政府の対外支出も、終戦後一ヶ年には引続き頗る多額に上つたがその後は急速に減つている。この項目は主として在外米国軍隊の支出(将兵の個人的支出も含む)から成るが、終戦後一ヶ年において一〇億弗に達しているであろう。

5 海外旅行サービス

(一) 戦争直前の数年かにあつては、米国人旅行者の海外支出

は一ヶ年三億弗以上に上つていた。そしてこれが他のサービス面における受取超過を相殺する重要な項目であつた。

(二) しかしながら戰爭中にこの形式の支出は大々的に削減され、対日終戰後の一ヶ年においても、辛じて外國人の米國における消費額を超過した程度に過ぎない。

(三) 米國々際收支上、この項目は將來さらに重要性を増すであろう。今まで抑えられていた海外旅行熱を満たすべく米國人旅行者の海外における消費額は、從來の記錄を突破するものと見られる。

四、米國の寄附及びクレヂット引渡し

対日終戰後一ヶ年間における米國の商品及びサービス取引の受取超過額七三億は、その大部分は米國(主)として政府によつて諸外國に与えられた寄附及びクレヂット引渡しで補はれた。

イ、一方的引渡し

(一) 戰爭直後における米國の対外商品及びサービス引渡し總

額の殆んど四分の一は、寄附その他同様の引渡し(商務省ではこれをユニラテラル・トランスファー即ち一方的引渡しと呼んでいる)で相殺されている。その引渡しによる対外支拂超過額は対日終戰後の一ヶ年間において約三二億弗に達している。

(二) 米國の右寄附行爲の大部分は國際連合救濟復興機関への參加を通じて行はれた。約一二億弗の物資が米國からアンラ向けに積出され、さらに米國政府からアンラを通じて運賃及び現金支拂いの形式で約一五億弗の対外援助がなされた。

(三) 戰時における米國々際收支は、返済を必要としない「直接」武器貸与取引によつて殆ど左右されていたが、これが重要性は対日終戰後急速に減退した。戰後一ヶ年間にこの形式において諸外國に与へられた物資及びサービスは約六億弗に及ぶが、これは一九四五年一二月に中國に対して

特別武器貸与援助が与えられたためである。

(四) さらに五億弗が非軍事供給の形式で米国政府から占領地域に送られた。これらの供給に対しては米国は将来占領地からの反対給付を要求するであろうが、しかしこれを対外クレヂットとして扱うという明確な決定もない。よって商務省はこれを暫定的に「一方的引渡し」として分類している。

(五) 最後に米国からの民間救済積出し及び援助送金は対日終戦後一ヶ年間に六億弗に上っている。

(六) その他の小さい雑項目の「一方的引渡し」は、諸外国から米国に無償で与えられているある物資及びサービス又特に占領地において米軍隊に対するものと大体同額である。

2 米國政府その他のクレヂット引渡し

(一) 終戦後一ヶ年間に米国が諸外国に渡した物資及びサービスの殆ど五分の一は、米国が与えたクレヂットから引出し

て賄われているがその金額は約二七億弗に上る。内訳は

(1) クレヂットから現金で引出された金額 一〇億弗

内訳は

(イ) 輸出入銀行から 七億弗

(ロ) 財務省の与えた特別対英借款 三億弗

(2) 後拂ひの條件で諸外国に引渡された物資 一七億弗

内訳は

(イ) 武器貸与物資 一一億弗

(ロ) 余剰物資 六億弗

(二) 米国政府の行つた対外貸付の外に、他の米国関係のクレヂット供与が若干ある。連邦準備銀行が外國中央銀行に対して金担保に与えた短期貸付は戦後一ヶ年間に一億一千万弗増加し、また他の米国諸銀行の諸外国に対する貸付も一億六千五百万弗増加している。

五. 外国金及び弗資産の処分

1 概觀

諸外国は戰後一ヶ年において、概してその金及び弗資産を少額使用したに過ぎない。しかしそれを多額に引出す必要に迫られた国もある。この期間に海外から米国に差引流入した金（米国におけるイヤーマーク金解放額も含む）は約四億弗に上り、米国における外国の弗殘高（預金及び短期投資）は二億弗近く減少し、しかして諸外国の米国証券手持ち分額は殆ど三億五千万弗に上つた。この外に英国が煙草買付のため特別英国勘定から差引約五千万弗引出している。以上合計約一〇億弗が米国の商品サービス出超額の一部を相殺した訳である。

2 金の流入

(一) 米国向け金流入の傾向は一九四五年一二月から再現し、その後相当の数量で続いている。戰前は米国へ巨額の金が流入したが戰時中は反対の傾向を示した。米国が差引

約二七億弗の金を諸外國に賣つたがこれは当時多額の米国輸出に対して海外から支拂がなく、米国が戰争遂行のために必要とする外国物資及びサービスに対して金で支拂うより方法がなかつたためである。

(二) 海外における対日終戰迄一ヶ年の金生産高（ソ連の生産を除く）は約七億弗と見積られるが遠からず戰争直前の年額一〇億弗の水準を回復するであろう。

(三) 終戰後一ヶ年間における米国の金流入額は、外国の新産金額約七億弗より約三億弗少い。從つて諸外国の金保有總額は右の金額にソ連の新産金を加へただけの増加を示している筈である。

(四) 一九四六年八月には外国通貨当局は恐らく約一六〇億弗即ち世界の通貨用金準備總額の四四%を持つているものと見られるが一九四一年末には僅かに約一〇億五千万弗、即ち現在より著しく少い世界合計の三〇%しか持つて

荒木光太郎文書 59

いなかつたのである。従つて米国の持つている割合は、世界合計の六九%から五六%に減つた訳である。

3 外国弗残高の使用

(一) 諸外国が米國に持つている弗残高の中差引約二億弗のものが、海外需要のために終戦以来一ヶ年間に支出された。即ち外国中央銀行及び政府の弗残高からは、差引六億弗近いものが(主として英加・比及び佛勘定から)引出され、諸外国の政府勘定残高は同期間に四二億弗から三六億弗に減つたが、民間残高は二四億弗から二八億弗に増加しているので純引出高は二億弗となるのである。しかしながらこの双方とも戦前の水準に比較すれば依然多く、例えば一九三八年末には政府残高は僅か五億弗、民間残高は一七億弗に過ぎなかつた。

(二) 一般的にいつて、これらの資金はいずれは普通「活用残高」程度まで減るものとみられる。尤も外国通貨当局の態度

からみると政府弗残高を戦前水準より可成り高いところに維持せんとする傾向もある。

(三) 戦争直前にあつては、外国政府資金が米国市場において短期証券に投資されることはなかつたのであるが、一九四六年八月末現在では政府資金の五分の二以上に上る一六億弗が米国財務省短期証券に投資されてある。この投資から上る利子は少いが、一部外国通貨当局は弗残高の相当部分を、金よりもこの形式で持続するであろう。

4 外国証券の賣却

(一) 諸外国が市場性のある国内証券(米国政府公債を含む)債券及び株式)を賣却した金額は終戦後一ヶ年間に差引三億五十万弗近くに達する

(二) 主な売手は中、英及び加であつた。これに反し中南米の数ケ國は若干ながら買つた方が多かつた。

六、一九四七年国際收支予想

荒木光太郎文書 59

1 概観

(一) 一九四七年も米国の商品及びサービスへの出超は著しく多額に上るものとみられる。外国經済の復興用資は顕著な進捗を示しているが、しかも外国の需要は—それに対しては当分米国が唯一の供給国であろう—外国が米国に供給する量を著しく超過するものとみられる。

(二) 実際上、一九四七年に米国の輸出を制約する材料となるものは、外国需要が少いことではなく、米国の輸出能力と米国より輸入を必要とする外国の弗資金の点である。

(三) 一九四七年の国際收支を予想することは、正確には困難だが、しかし一九四七年の米国輸出が一九四六年夏に達した割合で行われるとして、諸外国がこれに対する支拂い能力を持っているかどうかを見ることは興味あることである。

2 收入

(一) 現在の物価からすれば、一九四七年の商品輸出は約一一〇億弗に達するであろう。

(二) 他の商品引渡し(即ち外国貿易統計に現われていない商品の引渡し)ならびにサービス取引による米国の出超は一九四七年には余り多額に上らないであろう。

(三) 米国船舶收入が減少するものと見られることとならびに米国人の海外旅行支拂いが増加すること、この二つは米国の国際收支の帳尻を接近せしめるものである。

3 支出

(一) 一九四七年の米国輸入額は増加し、諸外国に対して対日終戦後一ヶ年の場合より多くの弗を供給することに多分なろう。供給元は急速に開発されつゝあり、一方米国における外国物資に対する需要は充足されずに残っているからである。

(二) 一九四七年初めの一般物価水準は戦後第一ヶ年の時より非

常に高いであろうから、大体にいつて商品輸入が一九四七年には約六〇億弗に増加するものと予期される。

(三) 諸外国は、現在の金準備に手をつけることなく、約五億弗の新産金を米国に貢却し得るであろう。

(四) 一方戦後才一年の国際収支に重要な役割を演じた米国からの寄附品は著しく重要性を減ずるものと見られる。民間による救済活動及び送金は引続き多額に上るであろうが、国家の寄附によつて行われる輸出高は減少し、アンラによる最後の積出しならびに議会が通過すべきアンラ後の対欧特別援助に限られるものとみられる。輸出記録に現われない対占領地民間供給を別として、米国からの対外援助は一九四七年には一〇億をあまり超過することはないだろう。

4 収支勘定

(一) これらの大ざつぱな想定によれば、米国の受取超過—それ

れに対して外国は米国からのクレヂツト、または現存の外国金及び弗残高から賄われなければならぬ—は約三五億弗に達するであろう。

(二) クレヂツトの主な供給元は米国輸出入銀行、英国の米財務省よりの借款、国際復興開発銀行、国際通貨基金、及び米国における民間資本市場これは対外貸付を再開する限度においてであろう。

(1) 輸出入銀行は一九四六年一一月末現在で約一五億弗の未拂いクレヂツトを公約額を持つてをり、今後新しいクレヂツトは与えないとしても、同行から約一〇億弗は引出されるものと見られる。

(2) 対英クレヂツト—それは一九四六年一一月末現在未拂い額がなほ三〇億弗以上残つている—は数ヶ年間にわたつて使用される予定のものであるが、一九四七年における引出しは相当な額に上るであろう。

荒木光太郎文書 59

三五億弗から前記の諸項目を引いた残りは米国における民間対外投資が再開されないとしても、国際銀行及び基金によつて余り問題なく賄われるであろう。

(三) 従つて、諸外国は一九四七年に米国から買う一一〇億弗の商品を現在の金及び弗保有高を引出すことなく賄い得ると結論できるであろう。しかしながら実際には在の金及び弗から引出されるとみるべき根拠がある。

その根據とは

(1) 民間外国弗残高は現在例外的に高水準を示してをり、これが普通の運轉限度まで漸次減るものと予期される。

(2) 加うるに外国通貨当局が持つている金及び弗準備は一九四六年末近くには一九〇億弗以上に上り一九四一年末には僅か一一五億弗しかなかつたのに比較すると非常な増加である。

(3) 多分一九四七年初めに外国為替業務を開始すべき国際

通貨基金の出資金として諸外国は約一〇億弗を金で出さなければならないであろう。

(4) 故に結局、米国は一九四七年中に、国際通貨基金の外に若干金及び弗の純流入をみるであろう。このような移動が行われる限度において、弗々レヂットに対する要求が減るか、または米国からの輸出が—米国の供給能力があるとして—一一〇億弗の数字を超過するであろう。

(終)